

2023 年度

(公財) 北海道サッカー協会 都道府県審判トレセン ユース3級審判員研修会② 実施報告書

平石 暁史

都道府県審判トレセン ユース3級審判員研修会②

○2024年3月22日(金) (伊達市)

【会場】 伊達温泉 小宴会場

【タイムスケジュール】

19:00 集合・夕食 - 20:00 開講式・オリエンテーション - 20:15 講義1「目指す審判員像」 -
21:00 大会要項の確認・事務連絡等 - 21:30 1日目日程終了



【参加者】 審判員10名 インストラクター2名

鈴木辰汰 (北海道2級)・鈴木陽和 (ホ-ツ3級)・安座間美結 (北空知3級)・茶木麻宏 (北空知3級)
細田陽生 (北空知3級)・猪股陽茉梨 (空知3級)・千葉吏恩 (札幌3級)・吉村心 (千歳3級)
蛭子拓海 (札幌3級)・濱瑛太 (室蘭4級) ※蛭子、濱については道南ブロックアカデミーより参加

【インストラクター】 靱山 智哉 (北海道サッカー協会 審判委員会育成部部員)

鈴木 敏晴 (室蘭地区サッカー協会 審判委員会委員長)

※鈴木氏については道南ブロックアカデミーより参加

○2024年3月23日(土) (伊達市)

【会場】 まなびの里サッカー場

【タイムスケジュール】

8:00 会場到着・ウォーミングアップ - 9:00 審判実技「伊達スプリングフェスタ」(途中昼食)
16:00 競技終了・振り返り - 18:00 ホテル到着・夕食 - 19:00 全日本U-12サッカー選手権大会派遣
審判員(猪股陽茉梨)による報告 - 19:30 高体連ユース審判プロジェクト研修会派遣審判員(蛭子拓海)
による報告 - 20:00 講義2「主審と副審の協力～表現する～」 - 21:00 2日目日程終了



【参加者】 審判員10名 インストラクター4名 オブザーバー2名

鈴木辰汰（北海道2級）・鈴木陽和（ホーク3級）・安座間美結（北空知3級）・茶木麻宏（北空知3級）

細田陽生（北空知3級）・猪股陽菜梨（空知3級）・千葉吏恩（札幌3級）・吉村心（千歳3級）

蛸子拓海（札幌3級）・濱瑛太（室蘭4級）※蛸子、濱については道南ブロックアカデミーより参加

【インストラクター】 平石 暁史（北海道サッカー協会 審判委員会育成部部員）

靱山 智哉（北海道サッカー協会 審判委員会育成部部員）

鈴木 敏晴（室蘭地区サッカー協会 審判委員会委員長）

山下 浩司（函館地区サッカー協会 審判委員会委員長）

※鈴木氏、山下氏については道南ブロックアカデミーより参加

【オブザーバー】 大石かおり（北海道サッカー協会 審判委員会女子部副部長）

一瀬 哲平（北海道サッカー協会 強化指定審判員）

○2024年3月24日（日）（伊達市）

【会場】 まなびの里サッカー場

【タイムスケジュール】

8:00 会場到着・ウォーミングアップ - 9:00 審判実技「伊達スプリングフェスタ」（途中昼食）
13:00 競技終了 - 13:30 振り返り・フィードバック - 14:30 3日目日程終了・審判員解散



【参加者】 審判員10名 インストラクター4名 オブザーバー1名

鈴木辰汰（北海道2級）・鈴木陽和（ホーク3級）・安座間美結（北空知3級）・茶木麻宏（北空知3級）

細田陽生（北空知3級）・猪股陽菜梨（空知3級）・千葉吏恩（札幌3級）・吉村心（千歳3級）

蛸子拓海（札幌3級）・濱瑛太（室蘭4級）※蛸子、濱については道南ブロックアカデミーより参加

【インストラクター】 平石 暁史（北海道サッカー協会 審判委員会育成部部員）

靱山 智哉（北海道サッカー協会 審判委員会育成部部員）

鈴木 敏晴（室蘭地区サッカー協会 審判委員会委員長）

山下 浩司（函館地区サッカー協会 審判委員会委員長）

※鈴木氏、山下氏については道南ブロックアカデミーより参加

【オブザーバー】 大石かおり（北海道サッカー協会 審判委員会女子部副部長）

研修をふり返って

○参加審判員 鈴木 辰汰（北海道地域所属2級審判員 オホーツク地区所属）

2年連続で参加させて頂きありがとうございました。この研修会ではいつも顔を合わす事の出来ない他地区のレフェリーやインストラクターの方々と沢山の時間を過ごす事の出来る貴重な機会です。今回学んだ事を今後の審判活動に活かしていくとともに、今回でユースとして研修会にでる事は最後となるので、覚悟を持ってより次のステージに向けてトレーニングや試合経験を積んでいこうと思います。また、今回の研修会を開催して頂いた北海道サッカー協会、そして、この研修会に協力して頂いたチーム関係者の皆様、本当にありがとうございました。

○参加審判員 安座間美結（北空知地区所属3級審判員）

今回ユース審判研修会を設けていただいたこと、参加させていただきありがとうございました。そして、大会を運営していただいた皆様、試合を提供していただいたチームの皆様にも感謝を伝えたいです。地区を離れてのユース審判研修会への参加は初めてで不安もありましたが、それよりも楽しみという感情が大きかったです。研修では失敗してもいいから沢山のことに挑戦することを目標に取り組みました。実技では沢山の課題が出てとても勉強になることばかりでした。これから地区での活動で課題に向き合い全国研修に参加できるように向上していきたいです。この度は本当にありがとうございました。

○参加審判員 茶木 麻宏（北空知地区所属3級審判員）

主審経験もあまりなくほかの審判の方より上手には出来なかったかもしれませんが、一日目からほかの人たちを見て刺激になり、普段よりも少しは上手に出来たと思います。2日目は一日目に教わったことを意識して取り組み、一日目よりも上手くなりました。2日目で出た課題と一日目に出た課題を意識して地区でもやれると思うので成長に繋がったと思います。自分のスプリントの部分を褒めて貰えたのでそこを活かしていきたいですし、体の大きさという部分もストロングポイントだとこの研修で初めて知ることができ、自分の強みがわかったためそこを意識してこれからも取り組んでいきたいです。

○参加審判員 細田 陽生（北空知地区所属3級審判員）

主審はあまり経験したことがない中での研修会の参加でした。周りの審判員との差が結構あって、1日目、2日目どちらとも落ち込んでいました。自分が主審をやっている時、1日目はとにかく争点の近くで見るとということと争点への角度の2つを意識するところから始めて、2日目は講義の内容をまとめた上で予測することや、姿勢などの習ったことを思い出しながら笛を吹いていました。次からは選手に邪魔と思われたい、そして、コミュニケーションを図りながらレフェリングをすることや、他にも様々なことを意識しなければならないと感じました。副審では、ゴールラインまで走ることであったり、フィールドに常に体を向けるなど、たくさんのお話を学ぶことが出来ました。最終的には自分の副審は満足するところまではいきませんでした。今の自分のできることは挑戦できたと思います。第4の審判員では自分の思っていたよりもやるのが大変でした。この研修会を通して自分は楽しいという気持ちと、悔しいという気持ちを感じました。悔しいと思うことは審判をやっていて初めてのことでした。とても貴重な体験だったと思います。今後、自分はこの研修会で学んだことをいかして、審判を本気でやりたいと感じましたし、プレイヤーを引退しても審判をやり続けたいと思いました。また機会があれば研修会に参加したいです。

○参加審判員 鈴木 陽和（オホーツク地区所属3級審判員）

今回初めてオホーツク管外から出て、ユース審判の研修会に参加させていただきました。管内と管外の試合の強度が全然違って、レフェリングもすごく難しく、とても勉強になりました。この研修会で同年代のユース審判員のレフェリングを見たり、全国大会に参加したお話を聞かせてもらって、良い経験ができたと感じています。さらにこれから強化しなければならない部分や伸ばしていく部分をしっかりと確認することができたので、地元のオホーツク地区に戻ったら、学んだことをどんどんチャレンジしていきたいと思います。

○参加審判員 猪股陽菜梨（空知地区所属3級審判員）

この度はユース3級審判員研修会に参加させていただきありがとうございました。今回の研修会を私は『チャレンジをする場』だと思い、ポジショニングの位置や、ふだんよく注意されることの多い笛の大きさなどを意識し、審判実技に取り組むことができました。予測して動くことの大切さや審判員同士のチームワークを発揮させるためにも、情報の得方や伝え方を工夫することでどうすれば試合をスムーズに進められるかについて学ぶことができました。この研修会で得られたことは今後の活動にも活かせることだと思っています。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

○参加審判員 吉村 心（千歳地区所属3級審判員）

このたび参加させていただいたユース審判研修で、数え切れないものを得ることができました。僕の中で特に大切だと思うことは審判ファミリーです。今までの審判活動はファミリーがおらず会場に行き1人でやるものでした。もちろんチームになる審判員の方がいますが、人脈、見聞が大きく広がったかと問われても自信を持ってYESと答えることができませんでした。僕は、心のどこかで審判員は常に孤独なものだと思っていました。しかし、今回のユース審判研修に参加し、同年代の審判員、インストラクターの方々、同年代の審判員でもすでに全国という舞台で活躍した審判員などと一緒に活動を通して、審判員というものは孤独なものではなく、むしろチームで活動するものだと、自分の考えが180度変わりました。チームとしての審判で活動する以上、互いの審判員をリスペクトし、コミュニケーションを取る。簡単なようではなかなか難しいことにチャレンジしようと思いました。また、いろいろな審判員の考えに触れることで今まで自分にはなかった考えを学ぶことができ、自分の見聞が途轍もなく広がりました。最後にこの研修会でキーとなっていた『今日が1番若い日』。この言葉は審判だけでなく、人間としても大切だと思い、前の日よりもたった0.001でもいいから成長することそれを365日常に続けていきたいと研修に参加し感じました。

○参加審判員 蛭子拓海（札幌地区所属3級審判員）※道南ブロックアカデミー生として参加

まずは、このような研修会に参加させていただき本当にありがとうございました。今回の研修会は「コミュニケーション」を目標にして臨みました。初日はなかなか自分から発言することができませんでしたが、2日目、3日目と日にちを重ねる内にだんだんコミュニケーションをとることができたため、研修会全体としては目標を達成することができたと思います。しかし、試合の中では、選手に話しかけようとしても言葉が出なかったため、審判としては課題が残りました。また、後で述べますが今回の研修会では講義や振り返り、仲間との時間から人として成長することができたと思います。今回はこのように、審判の学びだけでなく、人としての学びもあったとても充実した研修会でした。

○参加審判員 濱 瑛太（室蘭地区所属4級審判員）※道南ブロックアカデミー生として参加

今回の研修で久しぶりに審判をやってあまり自信がありませんでしたが、最終日は自分の判定に自信を持ちながらレフェリーをやる事が出来た。講習などでは審判と副審が言葉やアイコンタクトを使ってコミュニケーションを取り円滑にプレーを進められるようにするという講義がとても印象的でした。また、靱山先生のレフェリングの振り返りを行った時に、他の人が付箋に書いてあることで自分では気づかない見方をされていてとても勉強になりました。試合後の振り返りの時に自分の良かったところを褒めていただいてとても自信になりました。時間の管理や体力は日々の生活と審判とが繋がってくるので日々の生活を意識していきたいと思います。今回の研修では、ボールとの距離が課題だと思ったので今後改善していきたいと思います。

○インストラクター 平石 暁史（北海道サッカー協会審判委員会育成部ユース研修会担当）

まず、研修会の開催にあたり、室蘭地区サッカー協会審判委員会の鈴木様をはじめ、審判研修のための試合を提供いただいた北湘南サッカースクールの皆様のご理解ご協力に、改めて感謝申し上げます。また、ユース審判員を推薦くださった各地区協会と全面的にサポートいただいた各地区協会審判委員会の皆様に心からお礼を申し上げます。

今年度第1回目の研修会はFDカップという北海道で初めて開催する大規模な大会を使わせていただき開催しました。そして、第2回目の本研修会は全道各地から8名の審判員が集い（さらに2名のブロックレフェリーアカデミー生の参加）、審判団というひとつのチームとして、そして試合を担当する4名の審判チームとしての在り方について追求することを目指したものでした。毎回感じさせられることですが、高校生の若い審判員が寝食を共にし、互いに理解を深め、笑顔の中にも緊張の面持ちで審判員として試合に臨む姿に、ひとつの輝きを感じる瞬間があります。審判員たちの感想の中にもありますが、審判は主審だけではなく、副審と第4の審判員を含め4名のチームであります。個人の力量はそれぞれに差があるかもしれませんが、チーム力というのは個人の力というよりは4名の審判員がいかに試合前にコミュニケーションを図り、対話を繰り広げ、試合中は目線を合わせたり呼吸を合わせたり、互いのことを気づかい合うことが重要となります。金曜日の夜に集合した審判員はすぐに研修の目的を理解し、互いの胸を開いてよく会話をし、よく一緒に行動してくれました。そうすることで、試合前の打ち合わせを入念に行うこともできますし、試合後には審判員同士で試合を振り返ることが自然とできるようになっていきました。若い審判員たちは与えられた環境にすぐに順応し、変化できる力があると感じさせてくれた場面でありました。また、2日目の夜の研修では、昨年12月に北海道地域推薦として「全日本U-12サッカー選手権大会」に派遣された猪股陽菜梨氏と今年2月の「高体連ユース審判プロジェクト」に同じく派遣された蛸子拓海氏が仲間のユース審判員たちに研修報告のプレゼンテーションをしてくれました。各地区において彼らを指導してくださった皆様のおかげもあり、立派に成長した二人の姿は他の審判員の目標にもなりました。また、本研修会出身で現在北海道サッカー協会強化指定審判員として活躍している一瀬哲平氏が昨年引き続きオブザーバーとして2日目の研修に参加していただき、強化指定審判員としての活動実践や、審判員である前に必要な人間性の大切さについて熱く語ってくださったことも、インストラクターとしてはたいへんありがたく拝聴させていただきました。

次年度も8月と3月に道内のユース3級審判員が参加できる研修会を開催させていただきたいと計画しています。次年度も同じ目標をもった若者たちが目を輝かせながら励んでもらえるような研修会を企画実践していくと同時に、審判技術や知識の習得だけでなく、審判員としての資質や人間性を育てる場としても活動していきたいと思います。引き続き皆様のご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。